

東京五輪で満開の桜を

実験用の枝を採取

雪蔵で低温管理 8月銀座で披露

東京五輪を満開の桜で彩ろうと構想が進む「北海道雪氷桜プロジェクト」で、道内各地で実験用の桜の枝の採取が始まっている。つぼみが付いている枝を沼田町の雪蔵で低温管理して開花を遅らせ、8月上旬に満開にして東京・銀座で飾り、構想をアピールする。



桜の枝を缶に入れるボランティア（4日、札幌市豊平区で）

構想は、道内の建設会社

手する。

などに加え、紋別市や美瑛市、沼田町などの自治体でつくる実行委員会が推進している。来夏の東京五輪の開会式などで、北海道の満開の桜を飾ってもらおう——というもの。今年は、真夏の銀座で最盛期の花を見てもらおうと、実験に着

実験では道内の全179市町村に対し、桜の剪定枝を寄贈してもらおうように依頼。第1弾として3月下旬

に松前町の桜が届けられた。貯蔵場所となる沼田町の雪蔵は、雪や氷を運び入れて低温に保つ方式で、ソメイヨシノやエゾヤマザク

ラなど色々な品種の桜の開花や満開のタイミングなどを調べる。

札幌市豊平区でも4日、実行委のボランティアが、つぼみが付いている桜の枝200本以上を採取した。それぞれが長さ0.5〜1.5メートルに選別され、束にして缶に入れて運ばれた。

越智文雄・実行委員長は「真夏の銀座で満開の北海道の桜を披露し、東京五輪の本番でも構想が十分に実現可能なことを実験で証明したい。北海道地震の被災地の桜も咲かせ、『オール北海道』で復興に進む姿をアピールできればと思う」と話している。

2019年(平成31年)4月6日(土曜日)